

## キャリアアップに使える図書館の条件 教員免許＋司書教諭資格取得奮戦記のようなもの

山口 真也

はじめに

突然ですが、私は沖縄国際大学で司書資格課程と司書教諭課程を担当する、大学の先生をしています。学生たちにはずっと内緒にしていたのですが……私は、司書資格はもちろん持っていますが、司書教諭資格は残念ながら持っていません。司書教諭という資格は、学校図書館法に定められた国家資格で、校種や教科は問いませんが(養護教諭や栄養教諭を除いて)、教員免許状の取得を前提として認められる資格です。「先生」という仕事に興味を持ったことが全くなかった私は、大学時代、教職課程をとることはなく(そもそも大学に教職課程がなく)、大学教員になって、司書資格の担当者は司書教諭の資格課程も担当しなければならないと聞いて、びっくり仰天してしまったわけです。

司書教諭の授業を担当し始めて数年の間は自分をだまして授業をしていたのですが、教職を目指す学生は誰もがとても純粋で、ひたむきに頑張っています。私自身も、彼らに感化されたのか、教壇に立つ1人の先輩として、恥ずかしくない人間でいたいという気持ちにだんだんなってきました。そんな2008年の秋、一念発起して、まずは通信課程で教員免許の取得を目指すことにしたのですが、通信課程はレポート作成が中心の学習スタイルとなるため、調べもののために図書館を使うことは必須です。

それまでも、大学の先生、または研究者と

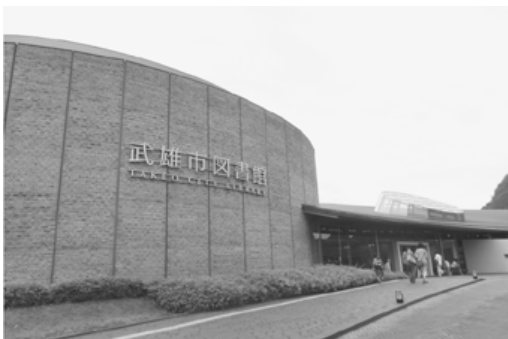
しても図書館はよく使っていたのですが、一人の社会人学生としてレポートを作成するのとは使い方が全く違います。本稿では、キャリアアップのために図書館を利用する上で私自身が感じたこと、図書館があつてよかつたと感じたこと、こういう図書館であつてほしい、と思つたことなどをまとめてみます。

### ①体系的な分類の大切さに気付く・NDCはとっても便利！

レポート作成のために図書館を使つていて、「図書館ってすごい！」と感じたのは、第一に体系的な分類ができていて、ということでした。私は高校の公民科の免許の取得を目指したので、哲学や宗教、法律、歴史、国際政治の勉強が主となります。「Atman説」や「因中有果説」、「債権の物権化」など、これまで聞いたこともない専門用語について、学説をまとめるだけでなく、時には批判的に考察せよというレポートがよく出題されました。レポートで説明するこれらの用語は極めて専門的なものが多いため、百科事典や専門事典で調べるだけでは足りず、図書も読まないといけません。参考文献をたくさん書きたいという下心もあつたりして、1冊でも多く、そのキーワードが載っている本を探そうとします。OPACで検索してたまたま見つけた1冊を読むだけでなく、書架に行つてその周辺と同じ番号の本を探すのはもちろん、私がレポートのために普段利用していたのは勤務大

学の図書館で、細かく分類した本が多かったため、その番号の1つ上の階層にさかのぼりながら、専門書から概論書、入門書へと調べていくことをよくやりました。例えば、「魔女裁判」の本を調べているとして、OPACを使うと234.04というドイツの中世史の分類番号の本がヒットするのですが、この番号の本だけでなく、234(ドイツの歴史)の本→230(ヨーロッパの歴史)の本と、番号を上っていきながら、参考文献を探していくのです。

私自身、司書として働いている時はこうした分類体系のメリットを感じることは少なかったのですが、この構造を知っておくと参考文献が芋づる式に増えてとてもありがたく感じました。ちなみに、いま何かと話題の武雄市図書館(カルチュア・コンビニエンス・クラブが指定管理者として運営する武雄市の市立図書館)は、書店経営のノウハウを生かしているのか、NDCを使わず、TSUTAYA書店でも採用しているらしい独自の本の並べ方をしています。これを「武雄CCC22分類」と呼ぶそうです。実際に、今年(2013年)の6月に見学してみて驚いたのですが、例えば、335.5(企業集中・独占)の本の隣に159(人生訓・教訓)の本があり、その隣にさらに673.9(サービス産業)の本が並んでいるという状態です。ふだんからNDCに慣れている人にとっては



【武雄市図書館 開館前から入口に行列が】

一回書架から取り出した本をもとに戻すのが大変そうですし、司書自身もどうやって本の場所を覚えるのか非常に疑問です。排架場所に規則性がなければ、返本は司書の手を介さなければならず、ただでさえ忙しい司書の仕事がさらに多忙になるでしょう。

NDCは「利用者には難しい」とよく言われますが、いったん規則性を覚えてしまえば利用者にとってもとても便利な分類法だと思います。図書館側も、NDCの構造的な利便性を利用者にアピールすると、キャリアアップを目指して「もっともっと」学びたいと考えている方への強い刺激になるのではないのでしょうか。

また、このこととは反対に、図書館で本探していて、明らかに分類番号がおかしいものを見つけたりするとがっかりすることもあります。NDCをしっかりと学び、理解した有資格者を配置することも、キャリアアップを支援する図書館の基本的な条件だと思います。

## ②深夜、休日・祝日も利用したい！

通信課程では、毎日の仕事をしながらの勉強となるので、どうしても日中に図書館に行つて調べものをする、ということが難しくなります。仕事が終わるのは夜の9時、10時、遅い時には11時、12時ということもよくあります。私は、勤務場所が大学だったので、仕事の合間に校内の大学図書館を利用する、ということがなんとかできたのですが、大学図書館にない一般書を読まないといけないレポート課題が出た時には、公共図書館に行きたいけど、行く時間がないということが何度もありました。沖縄県内の公共図書館の多くは閉館が19時と早く、出勤前に利用したくても、8時台は開いていません。つついオンライン

ン書店のAmazonの中古本で買ってしまおう(送料を含めても500円くらいなので)、ということも多々ありました。

もう1つの要望は、休館日の設定方法です。社会人が勉強しよう場合、計画的に毎日少しずつ勉強ができればよいのですが、やはり仕事がメインの生活ですから、「休日に、突然思い立って、集中してやる！」ということになりがちなので、日曜日だけでなく、祝日も大事な勉強日となります。しかし、沖縄の図書館の多くは(大学図書館を含めて)祝日を休館日にしています。これが実に困りました。私が利用していた通信課程では、1か月に最大4科目のレポートを提出することができるのですが、この祝日を逃すと、提出が1か月後になってしまう、その分、資格を取るが遅れてしまう、余計に学費がかかってしまう、という切羽詰まった状態が常に続いているので、祝日で図書館を利用できない時は、仕方なく那覇市のジュンク堂まで出かけて、店員の目を盗みながらメモをとったり(ごめんなさい)、必要な本は購入したりして、何とかレポートを仕上げる、ということが何度かありました。

もちろん、司書の方々の労働条件の問題もあるので、いたずらに開館日を増やしたり、開館時間を延ばしてほしい、とは思わないのですが、例えば県外の図書館では、分館ごとに休館日をずらして、祝日開館をしている図書館を増やしたりしていますし、「24時間貸出ボックス」を作って、OPACから予約した本を時間外でも、図書館の外にあるロッカーを使って取り出せるようにしているところもあります。工夫次第で、社会人でも利用しやすくなると思いますので、ぜひ取り組んでほしい改善点の1つです。



【通信課程で作成したレポートの数々】

### ③レファレンスは(無料)電話で対応を!

私が受講していたのは教職課程なので、通信課程とはいえ、1人でずっと勉強しているわけではなく、教育実習という大きなイベントがあります。教育実習とは、実際に学校に行って授業を見学したり、クラス運営に参加したり、研究授業をする、というプログラムです。通常は教職課程をとっている大学生が参加するものですが、30代後半の私も恥ずかしながら現役生の大学生に交じって、2011年9月に母校の高校(奈良県)での実習に参加させていただきました。

実習前には指定された教材を使った研究授業のための授業案づくりをしなければなりません。私の場合は公民科の中の「現代社会」という教科の、「地方自治と地域社会」という単元の授業を任されたのですが、授業の冒頭で、生徒達の関心を引くために、生徒たちの多くが生活している奈良市での政治参加の事例を集めることにしました。JR奈良駅前の風景は今の高校生や生徒たちには日常の風景ですが、もともとあった寺院風の駅舎が戦争に焼け残った歴史のある建物ということで、道路拡張などの再開発による取り壊しに反対する意見が市民から寄せられ、2003年に「曳家」(ひきや)という方法で南方に20メートル

ほど建物をずらした、という経緯がありました。この時の市民の運動を例に挙げれば、市民による政治参加、住民運動について身近に感じてくれるのではないかと思います、曳家の風景写真をインターネットで探したのですが、大きなサイズのものがありません。そこで奈良県立図書情報館に電話でレファレンスを依頼して、過去の駅周辺の写真が掲載された資料の探索とコピーをお願いしました(実習前に帰省した際に資料を受け取りました)。

私は、今は住民票を沖縄に移していますが、奈良県立図書情報館の司書の方は県外からのレファレンスにも快く答えてくださり、調査もスムーズでした。なによりも電話でのレファレンスに気軽に応じてくださったのが大変助かりました。メールやファックスでの受付をしている図書館もあると思いますが、上に書いたように、仕事をしながらのキャリアアップの勉強は常に時間に追われて、締め切りギリギリということが多いため、電話ですぐに答えを教えていただけるのはとてもありがたいですし、詳しいやりとりができるので、必要性の低い資料が届くこともなかったです。1つ要望を言えば、電話代が気になることでしょうか。今はSkypeなどの無料電話も可能ですので、レファレンスサービスにもぜひ導入してほしいなあと思います。特に沖縄には独特の文化があるので、私のように、県外からのレファレンスの問い合わせも多いと思います。こうした無料電話のサービスを各図書館で導入すると喜ばれるのではないのでしょうか。

#### ④インターネット<図書館の優位性をアピールするべき！

通信教育の課題は科目ごとに指定されたテ

キストを読み、テキストに関係するテーマでレポートを作成・提出し、内容が十分と認められた場合は沖縄の会場での筆記試験を受けることになります。単位を取得するためには、まずはレポートで及第点をとらないといけないのですが、仕事を立て込んでくるとどうしてもテキストを読み込む時間が確保できず、「甘い誘惑」に心が靡いてしまうことがあります。実は、私のような通信学習者を対象としてレポートを販売しているサイトがいくつか存在するのです。

私が利用していた通信大学は全国でもかなり有名なところだったので、過去に同じようなレポート課題を提出して合格した方のレポートもかなりの数が販売されています。1つのレポートが525円で販売されており、これを購入して少し手を加えて出す、ということも不可能ではありません。レポート課題の中には、教科書でも説明していないようなテーマもあって、担当教員に質問するのも難しいので、何でもいいから参考にしたいという気持ちになるのもわからないでもありません。私も実はこのサイトでレポートを見ようと思ったことがありました。

ただし、サンプルとして公開されている最初の1ページ分を見ただけでも、誤字脱字があったり、助詞の使い方がおかしかったり、レポートの構成になっていなかったり、箇条書きを羅列しただけだったりして、明らかにレベルの低いものが目につきます。よく考えてみたら、自分が合格したレポートを販売しているような輩のレポートが、自分のキャリアアップの参考になるはずがないのです。しかし、図書館の本を使って勉強した経験がある人ならこうした問題点はすぐに見抜けるのですが、勉強する習慣がない人は見抜けない

のかもしれませんが。

もっと言えば、こうしたレポートを購入することさえせずに、ネット上のタダの情報を引き写してレポートを書く人もいます。通信課程では、スクーリングがあり、何度か県外の大学に行って授業を受けてきたのですが、同級生たちの話を聞くと、レポートを書くときに教科書を読むのはまだ良い方で、ネットを調べてそのまま写すという人もいました。残念なことですが、「いかにして手を抜いて単位を取るか」ということが大きなテーマになっているのも、世の中の通信課程の偽らざる現実なのです。

インターネットの情報は信頼性が低いとよく指摘されます。最近では、ネットのサイトにもいろいろな種類があって、信頼性を担保しようという動きもあるので、一概にそうとは言いきれないかもしれません。しかし、ネット上の情報には「偏り」があるということも大きな問題だと感じます。特に、社会的な問題についての自身の考えを問うようなレポート課題の場合、ネットで検索して上位に表示される情報だけを見て、それが世の中の考え方・見解の全てだと思って、自分の意見をまとめていくのは非常に危険なことではないでしょうか。これに対して、図書館では、資料収集・提供の自由＝中立性という考えの下で多様な立場の資料が集められているはずですが、中立的に資料が並べられた書架そのものが、利用者の視野を広げる役割を持っていて、それはインターネットでは実現できない、図書館だからこそそのメリットです。そうしたインターネットに対する優位性を、学習者に気づかせる努力も図書館では必要だと思います。

## おわりに

以上、キャリアアップを目指して図書館を使う中で感じたことをいくつか書いてみました。原稿をまとめながら感じたことを最後にもう一つ。大学の教員になってから、ずっと「教える側」で授業をしてきたのですが、通信課程での学習を通して、自分が「学ぶ側」になってみて、図書館の便利さ、重要性、サービスの問題点など、改めて気づくことがたくさんありました。このことは現役の司書の方にも当てはまるのではないのでしょうか。

大学を卒業して何年もたつと、卒論で苦勞した思い出はどんどん色あせていきます。何かを必死になって調べるという経験を常に持つておかないと、調べる側の気持ちがイメーজできなくなるのではないかと思います。司書の方々も毎日多忙を極めておられると思いますが、1年に1つでも、何か専門のテーマをもって、図書館を使って何かレポートを書いてみる、というような前提があつてこそ、図書館のサービスはより利用者本位のものになっていくのではないかと思います。それが難しいなら、キャリアアップを目指して図書館を利用している方々と交流する語る場があつてもよいのではないのでしょうか。

日々の仕事をしながらでしたので、途中で1年間休学したりして、少し時間がかかりましたが、なんとか2012年3月に教員免許を、2013年12月に司書教諭の資格に必要な単位を取得することができました。振り返って思うことは、やはり図書館が身近になれば、キャリアアップはできなかったということです。沖縄県の図書館でも、キャリアアップの強い味方としての機能をもっとアピールしてほしいと思います。

---

やまぐち しんや：沖縄国際大学